

## 令和元年度福岡県森林環境税事業の実績評価について

- まず、「森林の有する公益的機能の発揮に向けた施策」では、強度間伐<sup>※</sup>の必要性やその効果について森林所有者に理解を求めた結果、前年度に比べ33%増の1,482haの森林整備が実施されており、県内の荒廃森林が着実に解消されている。
- 次に、「森林<sup>もり</sup>を守り育てる気運の向上に向けた施策」では、森林づくり活動への参加者数が前年度に比べ16%増の17,154人となったほか、6市で展示効果の高い森林の整備が行われるなど、森林<sup>もり</sup>を県民共有の財産として社会全体で守り育てる気運も着実に向上している。
- また、福岡県森林環境税基金については、昨年度から基金残高が9億円規模で推移しているものの、令和2年度以降で必要となる事業費や今後の基金残高の見通し等を踏まえると、概ね計画的に執行されていると考える。
- 当委員会としては、以上のことを総合的に勘案し、令和元年度の福岡県森林環境税事業については、条例の趣旨に沿って適切に実施されていると評価する。

※強度間伐：森林の持つ公益的機能を長期的に発揮させるため、間伐率を通常より高く設定した間伐のこと。間伐率は災害を誘発することがないように一律ではなく、現地に応じて適切に設定している。